



【合格体験記】総合型選抜編

能登高校から慶應大学へ！探究活動を軸に掴んだ合格

総合型選抜は、学力試験の点数だけでなく、志望理由・活動実績・面接などを通して総合的に評価する入試方式です。一般入試が主に筆記試験の得点で可否を決めるのに対し、総合型選抜では高校時代の取り組みや将来のビジョンが重視されます。近年は総合型選抜の募集枠が年々拡大しており、能登高校からもこの入試方式で大学に入学する生徒が増えています。

今回はそんな総合型選抜を活用して、慶應大学に合格を決めた能登高生へのインタビューを掲載します。

合格者：能登高校3年生 灰谷悠翔さん

進学先：慶應義塾大学 総合政策学部 AO入試（総合型選抜）

■ 志望のきっかけ：探究活動を大学での学びにつなげる

スタッフ：改めて、合格おめでとうございます！まずは、慶應義塾大学の総合政策学部（SFC）を目指した理由を教えてください。

灰谷さん：ありがとうございます！実は元々理系の学部を志望していたんです。でも、高校の「総合的な探究の時間（総探）」や地域での活動をする中で、大学でも探究活動を活かしていきたいという思いになりました。SFCを選んだ理由は、多様な分野の教授や学生が集まっていて、それぞれが「思い」を持っているからです。僕は、子どものように一つの夢に全力で取り組む中に、理論や知識、経験があるのが思いの強さだと思っています。SFCにはそういう「思い」のある人たちが集まっていると感じました。

■ 入試の道のり：自分の経験を言語化することの大変さ

スタッフ：入試の流れと、特に大変だったことを教えてください。

灰谷さん：一次試験は志望理由書や自己PR書などの書類審査、二次試験は面接形式でした。一番苦労したのは、自分の「軸」を明確に伝えることです。今までの経験をただ並べるだけでは不十分で、具体的に、説得力のある言葉に落とし込む作業が本当に大変でした。簡単に考えるだけだと、曖昧にしか伝わらないんです。

スタッフ：その壁をどうやって乗り越えたのでしょうか？

灰谷さん：本当にたくさんの人に支えられました。まちなか鳳雛塾スタッフの小澤さんや担任の寺井先生、地域みらいキャリアの山本さん、そしてSFCの先輩方など、自分の書いた志望理由書にたくさんの方々から意見をもらいました。色々な視点を持つ方々と対話を重ねることで、自分の考えが深まっていきました。

■ 活動の内容：能登の「今」と「未来」をつなぐアクション

スタッフ：高校での探究活動について具体的に教えてください。

灰谷さん：一つは、総探での「仕事図鑑」の作成です。能登で働く方々にインタビューし、どんな思いで仕事に向き合っているのかを一冊の冊子にまとめました。

もう一つは、横浜女学院の生徒26名を迎えた能登スタディツアーの企画・運営です。被災した朝市通りや、豊かな自然が残る場所を案内し、能登の現状と未来について能登高生と一緒に考えるワークショップを開きました。視察先や講演の選定、横浜女学院との調整、ワークショップの運営と、結構大変でした。

スタッフ：どれも素晴らしいチャレンジですが、探究活動を頑張るようになったきっかけはありますか？

灰谷さん：中学生の時に父に連れられて参加した、福井県高浜町のワークショップが原点かもしれません。そこで出会った大人たちは、良い意味で子どものようにアイデアを楽しそうに語り、否定するのではなく実現に向けて行動していたんです。

■ 未来へのビジョン：復興の先にある「つながり」を守りたい

スタッフ：大学進学後、そして将来の展望はありますか？

灰谷さん：能登の地域活性化に貢献したいです。特に「人のつながり」が大事だと思っています。復興が進み、支援者が離れていくタイミングで、どうやって継続的なつながりを作っていくか。大学で理論と経験を吸収し、能登の力になりたいです。

【合格体験記】総合型選抜編

避難所で「子ども本部」を開設 法政大学で描く未来のまちづくり

合格者：能登高校3年生 和田敦樹さん

進学先：法政大学 現代福祉学部 福祉コミュニティ学科 まちづくりチャレンジ特別推薦入試（総合型選抜）

■ 志望のきっかけ：自分の経験を活かして現場主義の学びへ

スタッフ：合格おめでとうございます！まずは、法政大学を目指した理由を教えてください。

和田さん：ありがとうございます！一番の理由は、フィールドワークのカリキュラムが豊富で現場を大切にする学部だったことです。学びたい学部の教授が「避難所でのコミュニティ形成」や「住民主体のまちづくり」の専門家で、石川県内でも活動実績がある方だということも決め手になりました。

■ 入試の道のり：2000字の小論文と「自己分析」の1ヶ月

スタッフ：入試の流れと、特に大変だったことを教えてください。

和田さん：一次試験は志望理由書や活動報告資料、二次試験は小論文と面接でした。特に一次の書類作成に向けて、自分と向き合う自己分析に1ヶ月ほどかかりました。最初は目標が定まらず苦労しましたが、担任の先生が毎日遅くまでサポートして下さったおかげで、「住民主体のまちづくり」という自分の軸を見つけることができました。

スタッフ：二次試験の小論文もかなり特殊だったと伺いました。

和田さん：はい。1時間で2000字以上の論述が課されました。新聞記事を読んだ上で、創造的復興についての自分の解釈と、それを踏まえた過疎地域の課題解決について書くというものでした。難しかったですが、自分の経験したことや考えてきたことを信じて書き切りました。当日のテーマが自分の経験とマッチしていたのも、運が良かったと感じています。

■ 活動の内容：人と人をつなぐアクション

スタッフ：評価の対象となった、高校時代の活動について教えてください。

和田さん：一番大きかったのは「能登スタディツアー」を企画・運営した経験です。横浜女学院の生徒の能登での学びを支援するツアーパッケージを準備しました。また、震災後の避難所で「子ども本部」を立ち上げた経験も印象的でした。これは大人と子どもが対等に避難所運営に参加できる仕組みづくりです。

他には「能登みらい会議」で地域の大人たちと対等に能登の未来について語り合ったことや、「鳳雛ゼミ※」で地域の問題点について対話したことが、自分の考えを形にする助けになりました。

※能登高校魅力化プロジェクト主催の地域学講座

■ 未来へのビジョン：行政と市民をつなぐ「架け橋」に

スタッフ：大学進学後、そして将来の展望を教えてください。

和田さん：行政でも市民でもない立場から地域を考える「地域コーディネーター」になりたいです。被災後に感じた、人と人とのつながりの大切さを基盤にして、持続可能なまちづくりを支える存在を目指しています。大学では理論と実践の両面から、能登の力になれる知識を吸収したいです。

【合格体験記】総合型選抜編

「自分にもできるかも」福知山公立大学で深める地域愛着の形

合格者：能登高校3年生 鳴瀬美月さん

進学先：福知山公立大学 地域経営学部 地域経営学科 総合型選抜

■ 志望のきっかけ：地域で活動する大人たちとの出会い

スタッフ：合格おめでとうございます！まずは、福知山公立大学を目指した理由を教えてください。

スタッフ:合格おめでとうございます！まずは、福知山公立大学を目指した理由を教えてください。

鳴瀬さん:ありがとうございます！元々「能登に関わりたい」という気持ちはありましたが、どう動けばいいか分からずにいました。転機になったのは今年の「地域みらいキャンプ」です。そこで地域で活動する大人たちの話を聞き、「自分にも何かできるかも」と思えたのが大きかったです。地域に密着したアクションを大切にしているこの大学なら、熱い思いを持つ仲間と切磋琢磨できると感じ、志望を決めました。

■ 入試の道のり：高校の先生の熱いサポート

スタッフ:入試の準備で特に大変だったことは何ですか？

鳴瀬さん:正直に言うと、準備を始めるのが遅くなってしまって……。志望理由書を書く際には、担任の寺井先生と夜中まで残って対策を練りました。先生には本当に申し訳ないくらい付き合ってもらいました。

あとは特に二次試験のプレゼンテーション対策が大変でした。この大学の総合型選抜は形式が新しく、過去問も少なかったんです。グラフや記事を読み解き、有効な熱中症対策を提案するという課題でしたが、同大学の推薦入試を参考にして手探りで進めました。

スタッフ:高い倍率(約7倍)の中での合格でしたが、どう乗り越えましたか？

鳴瀬さん:先生との1on1での志望理由書作成や、友達との面接練習など、周りの支えが全てでした。一人だったら絶対に挫折していたと思います。友達に愚痴を聞いてもらったり、時には周りに焦らせてもらったりしながら、自分のペースで進めていきました。

■ 活動の内容：能登と横浜をつなぐ

スタッフ:評価の対象となった、高校時代の活動について教えてください。

鳴瀬さん:横浜女学院の生徒さんを招いた「能登スタディツアー」の企画・運営です。震災から時間が経ち、他地域で能登への関心が薄れていく中で、今の現状と魅力を直接見てほしいと考えました。こだわったのは、参加した高校生が自分をさらけ出せる「居場所」を作ること。都会で取り繕って生きている同世代が、能登の自然や人と触れ合う中で、素の自分に戻れるようなツアーを目指しました。

■ 未来へのビジョン：能登に住む人を増やすために

スタッフ:大学進学後、そして将来の展望を教えてください。

鳴瀬さん:具体的な職業はまだ決まっていませんが、将来は能登に帰ってきて、ここに住む人を増やしたいです。大学では、特に小・中・高生をメインにした「地域への愛着づくり」について学びたいと考えています。自分の活動が実際にどんな効果を生むのか、客観的に測れる力を身につけたいです。